

七尾城の あらまし



(七尾城本丸跡)

守護大名として、百六十九年間、能登を統治した畠山氏の居城で、中世の拠点城郭です。山全体が城とも言え、築城学からも、規模の大きさから、たいへんすぐれたものでした。

初代畠山満慶の頃は、砦のようなものであったと思われますが、その後の、応仁の乱や、一向一揆、百姓の強訴など、戦国時代の前ぶれが、地鳴りのように押しよせてくる状況の中で、徐々に強固な山城に作りあげられてゆきました。遊佐、温井、長、三宅などの重臣によって、何度か内部争いがあつ

たのですが、外からの危機には、この争いを止めて団結するという家風が、畠山氏の治政を支えてきたのです。しかし、戦国怒濤の中で織田方と上杉方に分かれ、そのことによって城も畠山氏も共に滅んでゆきました。

上杉謙信はかの有名な九月十三夜の詩をこの城でよんだと言われておりますが、勝利の美酒を味わった半年後にあつて死を迎えました。

その後、織田信長の配下である前田利家が能登の領主となったのです。

しかし、もはや山城の時代ではないと考え、小丸山に移り、そこを中心にして今の七尾市街を作りました。



九月十三夜

霜は軍営に満ちて秋気清し
数行の過雁月三更
越山併せ得たり能州の景
遮莫家郷遠征を憶ふ

伝 上杉謙信作

「古城」の碑

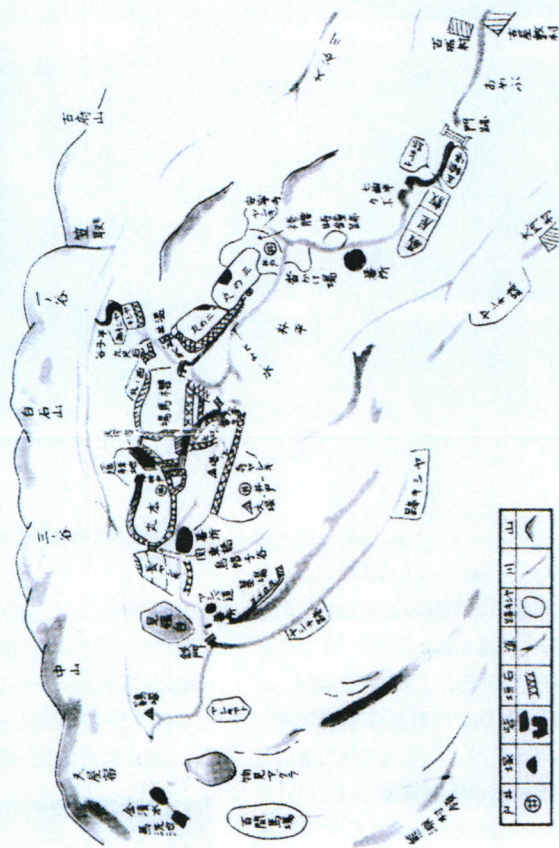
高橋桐太郎 作詞

細川 潤一 作曲



(資料館前庭)

七尾城絵図



七尾城史資料館



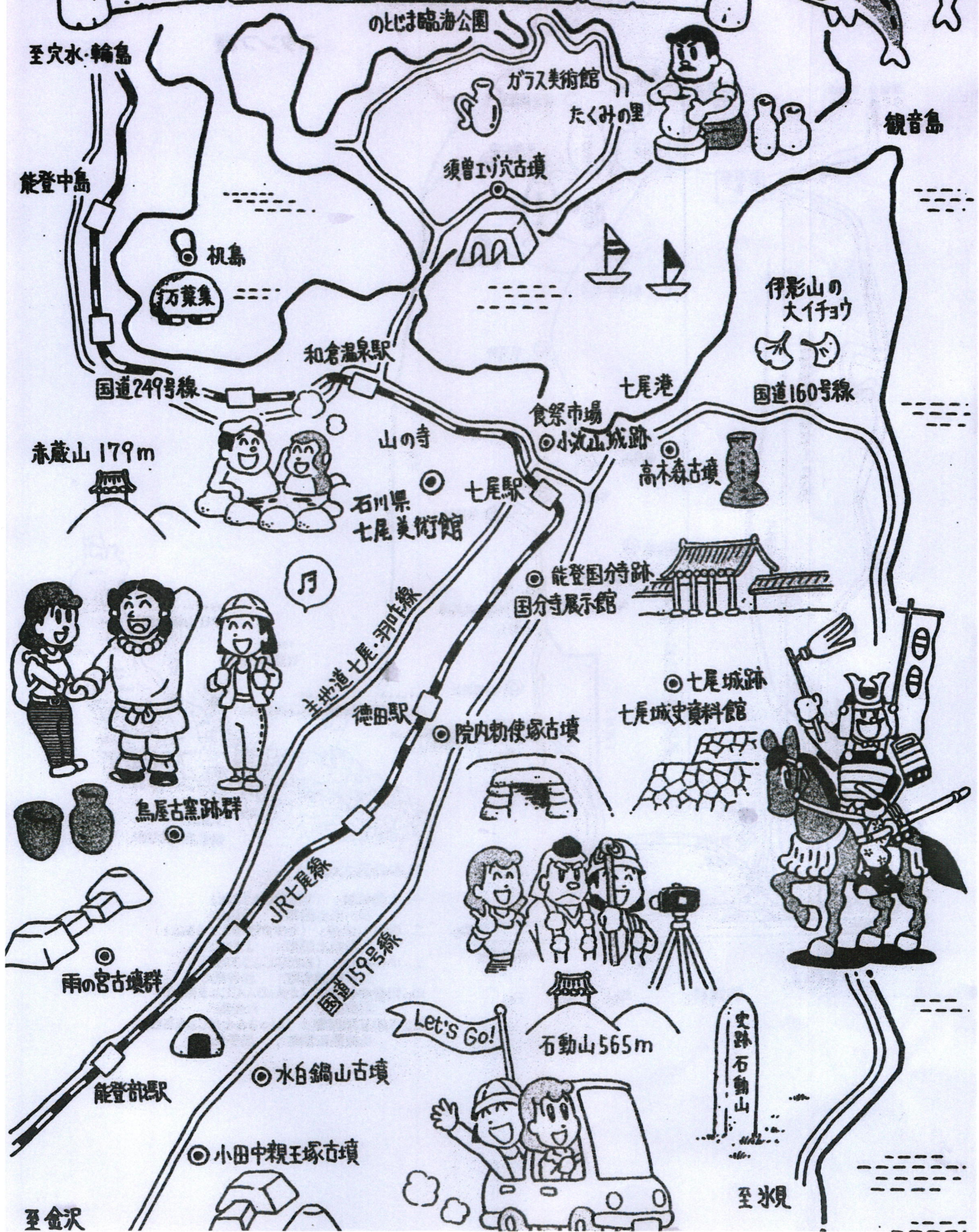
七尾城史資料館は、昭和三十八年、七尾城主の子孫である畠山一清翁によって古屋敷町シカタ菰に建てられ、平成七年に大修理された。中世の城のイメージを取り入れた近代建築である。

館内には、七尾城や城下から出土した天目茶碗、水晶製五輪塔型舍利容器、銅板線刻清凉寺式釈迦如来立像をはじめ、城主愛刀、長槍、薙刀、螺鈿の鞍、唐草模様の鏝などの武器・武具や、城主直筆の書翰も展示され、戦国時代の武家の生活の一端を知ることが出来る。

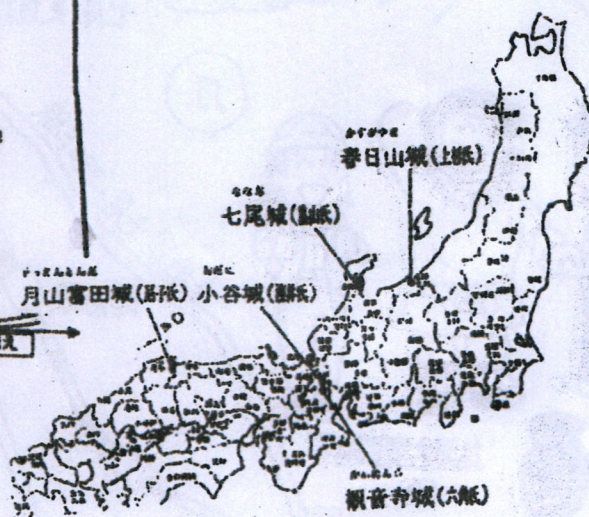
能登畠山氏と七尾城の歴史

応永 十五年	一四〇八	初代畠山満慶、能登一国の守護となる。満慶は京都に在り、家臣の遊佐氏が守護代として能登を治める。
応仁 元年	一四六七	応仁の乱起る。三代畠山義統、西軍に付く。
文明 十年	一四七八	応仁の乱が終わり、義統、能登に下向する。連歌師宗祇、七尾へ来る。
文明 十五年	一四八三	畠山義統、府中守護館で連歌会を催し「賦何船連歌」を詠む。
大永 三年	一五二三	月村斎宗頼らにより「賦何路連歌」が詠まれる。
大永 五年	一五二五	七代畠山義総、永雨らと「賦何人連歌」を作る。
大永 六年	一五二六	歌人冷泉為広、為和父子、七尾へ来る。
大永 八年	一五二九	辰谷川等伯、七尾に生まれる。
天文 二十年	一五五一	この頃、畠山七人衆体制が敷かれる。
天文 十二年	一五五三	遊佐光房、加賀より能登に侵入する。温井紹春これに破る。
永祿 八年	一五六五	畠山氏の重臣ら、九代畠山義綱を追放する。
元龜 二年	一五七二	辰谷川等伯、この頃に上洛する。
天正 四年	一五七六	越後の上杉謙信、能登に攻め入り、七尾城を囲む。
天正 五年	一五七七	謙信、再び七尾城を攻める。七尾城落城し、能登畠山氏滅ぶ。
天正 九年	一五八一	織田信長、前田利家に能登一国を与える。
天正 十年頃	一五八二	利家、小丸山に城を築く。

七尾・鹿島史跡めぐりマップ



スタンプ欄



- 一、七尾城跡 (ななおじょうあと)
石川県七尾市 島山氏
- 二、春日山城跡 (かすがやまじょうあと)
新潟県上越市 上杉氏
- 三、小谷城跡 (おだにじょうあと)
滋賀県湖北町 渡井氏
- 四、鎌倉寺城跡 (かんのんじじょうあと)
滋賀県 六角氏
- 五、月山富田城跡 (がつさんどじょうあと)
島根県広瀬町 尼子氏

訪館日 年 月 日